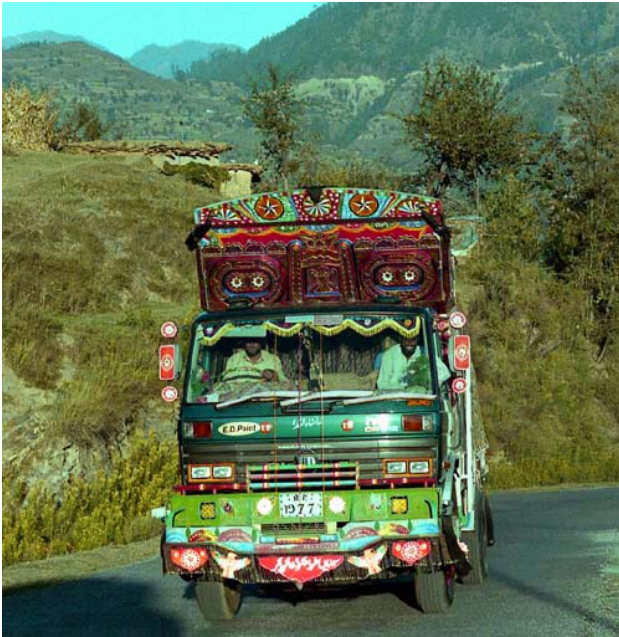


パキスタン・2000年 パキスタンのトラック野郎

首都のイスラマバード空港に到着して、パキスタン北部へ向かうカラコルムハイウェイに入ると、やたらにカラフルなトラックが目につく。日本でも長距離トラックで派手な塗装をしたものや、最近ではボデー一面に広告を貼り付けているバスが見られるが、このトラックは写真で見るように半端でなく極彩色に塗装されている。



(写真 2-2) カラコルムの中国国境近くで入国審査待ちのトラック野郎。

(写真 2-1) カラコルムハイウェイを走る長距離トラック。

カラコルムハイウェイはインダス川沿いにヒマラヤ山脈、ヒンズークシ山脈の渓谷を通り、カラコルムの峠を越えて中国・新疆ウイグル自治区のカシュガルまでいく大動脈である。鉄道はないので、物資の運搬はもっぱら長距離トラックに頼らざるをえない。

中国文化圏とヒンズー文化圏の交流の道であったこのルートは昔も今もシルクロードの一つである。昔は馬か駱駝の隊商が通った道を今はトラックがその役を担っているのだ。

ハイウェイと言っても我々が知る高速道路とは違う。断崖絶壁に岩を砕いて通した道路。がけ崩れが頻繁にあり、その度に軍隊が出動して修復するまで待たされる。5000m 弱の氷雪に覆われ、酸素濃度も低い峠を越える等、現代の隊商にとっても危険一杯の旅なのだ。自分たちの生活と命をかけているトラックに金をかけて化粧する気持ちもわからんではない。

イスラマバードの近郊にトラックの改造と化粧をしている工場があり、そこを訪れてみた。作業中のトラックが数台あって、その写真を撮らせてもらった。



(写真 2-3) 運転席にせり出した飾り部分の横



(写真 2-4) 運転席の上部前面。

運転席の上にせり出した飾りの形は駱駝を模しているらしい。往年の駱駝の隊商を引き継いでいる誇りをこれで示

しているのだ。



(写真 2-5) トラックの後部。

聞けばパキスタンのトラック野郎は本体より車体の改造と塗装にお金をかけるらしい。工場には図柄の見本が数多くあって、その中から決めることになるが、中には自分で絵柄を用意してくる人もいるとの事である。

近くで良く観察すると、外部だけでなく、運転席内部にもカラフルな塗装と飾りがハンドルにまで施されている。それだけではない。通常は見えない車輪カバーや泥よけにまで塗装されているのだ。

「見えない所を飾るのが粋というものよ・・・」
そんな声が聞こえてくるようである。

通りすがりの畑で自転車に乗った少年に会った。彼の自転車もカラフルに塗装されている。写真に撮るとわざわざ停めて見せてくれた。自慢の自転車なのだろう。パキスタンのトラック野郎は格好良い存在なのだ。



(写真 2-6) 中にはこんな頑丈に出来ているものもある。



(写真 2-7) 少年と自転車。